

教員コラム

准教授 上田 智佳

担当授業紹介

【乳児保育Ⅰ・Ⅱ】 助教 美藤 佳代子

ねえ、ピアノって楽器知ってる？

そう。白と黒の鍵盤が88個並んで、デカくて黒いやつ。コシ、弾くのも難しいのよ…

一度にたくさんのことを考えないといけないの。まず楽譜で弾く音を読む。ドレミの音だけ

けでなく音符の長さもね。

同時に使う指を考えて、手

の位置をセッティングしたら

鍵盤を押す。音が鳴った瞬間、

正しい音かの判断と大きさや音質が求めているものかを聴き分ける。その時にはもう



ラフマニノフ作曲の『鐘』
音符はいくつあるでしょう？

次の音を読んで鳴らさなくてはいけない。しかも両手で全く異なる音进行处理していて、時には10個以上の音を同時に鳴らすってこともある。

小さい時から訓練されたピアニストやピアノの先生は難なく弾いているように見えるけど、そのために想像もつかないくらい練習時間を確保しているの。

ノーマルスで弾くこと以上に大事なものは、その曲の作曲家や時代の背景を考えたり、音色や間（ま）を考えたりすること。時にはストーリーも。奥が深すぎてゴールが見えないんだけど。でも私の持ち主は、この練習の時間は他の全てを忘れてピアノの音色や曲想の追究に集中できる大好きな時間なんですって。



この授業は、保育士の資格を取得するために必須の科目です。Ⅰ回生の一年間を通して勉強します。授業では最初に映像などで乳児の発達を勉強します。「赤ちゃんから見ると世界はどう見えるのか?」「赤ちゃんは何ができるのか?」ということを一つひとつ学んでいきます。



次に、乳児の発達を支える援助の方法や環境の整え方、赤ちゃんのお世話の仕方などを実践的に学びます。例えば抱っこやおんぶ、授乳、おむつ替え、沐浴の方法などの保育技術を身につけます。模型人形は赤ちゃんと同じ大きさや重さで、首もすわっていません。

学生は人形にそれぞれお気に入りのお名前をつけて「可愛いくー!」と言いながら、技術もしっかり磨いてくれています。

